

実技検査・面接・小論文

1 実技検査

57年度に実施した国立大学の学部数は、一般入試では60(17.3%)、推薦入学実施学部では昼間部 5 (6.8%) であった。これらの学部のうち、教員養成大学・学部の音楽・美術・体育専攻における実技検査について、兵庫教育大学で適性判定法、和歌山大学で入学者の1次成績・単位取得状況の調査を行っている。

2 面接

57年度に実施した国立大学の学部数は、一般入試では46(13.3%)、推薦入学実施学部では昼間部 68 (91.9%)、夜間部 11 (84.6%) であった。

医学系では比較的多くが実施しているが、研究としては、「観察力テスト」の導入効果(山梨医科大学)、学内成績との関係の追跡調査(山梨医科大学、福井医科大学)、評価結果の安定度及び面接委員の意見の調査(佐賀医科大学)がある。また、小論文成績と併せて1次成績との相関を調べ配点に工夫の必要を感じたところ(島根大学教育学部)がある。

3 小論文

57年度に実施した国立大学の学部数は、一般入試では98(28.2%)、推薦入学実施学部では昼間部 47 (63.5%)、夜間部 8 (61.5%) であった。これらのうち医学系では、54～56年度入学者及び57年度受験者について、調査書・1次・2次・学内成績との相関調査(新潟大学)、自然科学領域の資料を使用して出題した結果妥当な効果が上がったとの検討(佐賀医科大学)がある。

文科系では、静岡大学は人文学部経済学科について小論文の採用目的——勉学意欲・自主的勉学態度・社会的問題関心・論理的思考力・表現力——に照らした効果を、1次成績不振者の2次逆転傾向と、学内成績の学生集団類型別——1次優劣・小論文優劣による——比較により、検討した。また、相関調査では、1次・2次学力検査・調査書との相関(名古屋大学、大阪外国語大学、熊本大学)、小論文設問別に設問間相関・1次教科別との相関(熊本大学)の調査がある。富山大学は全国の小論文実施状況を54～56年度について調査した。

なお、上記の文中、実施学部数については文部省大学課調査に基づいた。()内は該当学部総数に対する百分比である。